

今だからこそ、 普通の人のまっとうな投資法

経済ジャーナリスト・阪南大学講師
堀浩司

私の周りに確実に投資で成功している人たちがいます。共通しているのは「余裕」。その余裕から難しそうな投資の世界が単純に見えるてくるのです。

日常生活での消費では、値段が下がってきたら、皆さんは物を買います。そして、値上がりしたら消費を差し控えます。値上げセールなんてしたら誰も買いに行きません。

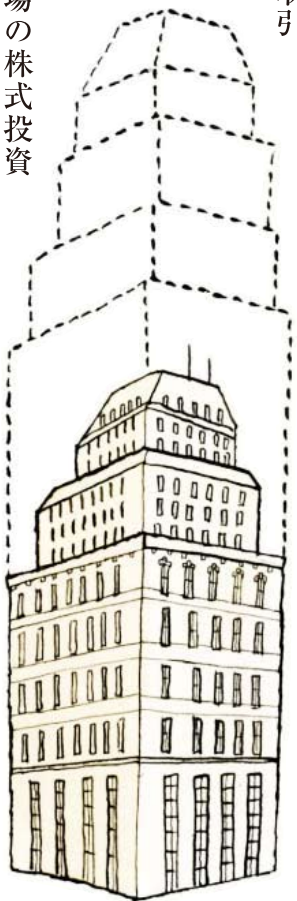
ところが、不思議なことに投資となると多くの方々はその逆の行動をとられるのです。もちろん日常生活の消費とは異なり、投資は購入したものを将来売るということがほとんどの場合、前提となります。

しかし、であればなおのこと、安く買って高く売るとというのが当

たり前過ぎる行動なのです。さて、皆さんはどうでしょうか。値段が上がり出し、高騰が続くと投資をします。逆に価格が下落すると、途端に投資を手じまいます。冷静に考えると当たり前のことが、余裕がないとつい焦りとなって、判断が逆に働いてしまいます。

株式投資をのぞいてみましょう。
東京証券取引
所のまっ
めにより
ますと東
京、大阪、
名古屋の
主要3市場の株式投資

部門売買動向、10月の個人投資家の市場で株を買った額から売った額を引いた買い越し額が、東証が統計を取り始めた1982年以降



最高の1兆円に迫る9927億円だったと伝えていきます。そして、これまで日本の株式市場の主役であった外国人投資家が売り越しているのです。そうなのです、外国人投資家が安値で手放した株を確実に買われている個人投資家がいらっしゃるのです。

外貨投資はどうでしょうか。ドルやユーロの外貨を商品と考えればいいのです。安く買って高く売る。ドルやユーロが安くなった時に外貨投資をし、高くなった時に売却する。円で考えれば円高の時に外貨投資をし、円安で外貨を売却する。普通の方が行う、買ってそして売るという外貨投資では円高の時に投資のチャンスなのです。

どうも円高のデメリットばかりが強調され過ぎているように思えます。確かに物を海外に売るという輸出の面では円高は価格が上昇し日本にとって不利になります。しかし、個人生活では直接の輸入品に限らず、大部分の消費財が輸

入により原材料を調達していることを考えますと、円高は個人生活にとってメリットのある動きなのです。

円高のマイナスイメージで外貨投資を躊躇されるのは、もったいないことだと思います。

私の周りの確実に投資で成功させている方々のお1人、もう80歳を超えたご高齢のご婦人です。ずっと株式投資を続けておられます。好きな会社の株価の動きを毎日毎日、ご自分の手帳に書いておられます。株価は高い時もあれば安い時もある。その動きを見続け、安くなったタイミングで買われます。そして、ご自身で決めた株価に値上がりしたら、売却なさいます。

まっとうな投資法の完結は、売る価格をあらかじめ決めておくということ。利益の深追いをしないということなのです。

あなたのまっとうな投資法、ごくごく単純なところに成功の鍵はあるのです。



堀 浩司 (ほり ひろし)
経済ジャーナリスト、ファイナンシャルプランナー

わかりやすいお金や税金、身近な経済の話テーマにテレビ、ラジオに数多く出演。その他、新聞各紙で記事の執筆を担当。阪南大学でも講師を務めており、実務でつちかわれた分かりやすい経済評論は、辛口ながらソフトな語り口で好評。